筑波大学
University of Tsukuba

2024 年 7 月 11 日

報道関係者各位

国立大学法人筑波大学

外国人生徒を含む保健体育の学習指導において教師が意識する役割を解明

外国人生徒を含めたインクルーシブ教育の実現は、日本の学校教育における重要な課題の一つです。本研究では、保健体育学習において、外国人生徒に対して、高等学校の日本人教師が、自らの役割や責任をどのように位置付けているかを、インタビュー調査により明らかにしました。

近年、日本の学校では、日本語指導を必要とする外国人生徒が急増しています。そうした日本語を第二言語とする生徒を含めたインクルーシブな教育は、すべての生徒が複数の言語に触れ、新しい文化や歴史、そして多様性を学ぶ機会をもたらし、認知能力の強化に役立つことが指摘されています。特に体育学習は、身体教育を通して、公平、規律、敬意、チームワークなどを学ぶだけでなく、国や文化、宗教を超えて生徒たちを結びつけ、平和や寛容、相互理解を促すことのできる重要な場です。

本研究では、日本の高等学校の保健体育教師が授業で外国人生徒を指導する際に、教師自身が自らの役割や責任をどのように位置づけているかを、インタビュー調査により質的に明らかにしました。その結果、①外国人生徒への安全な学習環境の確保、②外国人生徒の学習の適切な評価、③教師であると同時に、ホストペアレントとしての責任（健康管理や心身のサポート）、という３つの点が意識されていることが分かりました。

今回の成果から、日本の高等学校の保健体育学習において外国人生徒を含めたインクルーシブな教育を実現していくためには、国や地方自治体の教育システムとして、指導計画や評価、教師の職務等、外国人生徒の学習に対する明確で焦点化された指針を設定する必要があることが示されました。

研究代表者
筑波大学体育系
佐藤 貴弘　教授
片岡 千恵　准教授

研究の背景

今日のグローバル化を背景として、日本の学校では日本語指導を必要とする外国人生徒が急増しています。外国人生徒にとっては、言葉やコミュニケーションの障壁が、学習だけでなく、学校の文化や習慣の理解を困難にし、さらには、アイデンティティの危機や自己肯定感の低下につながることも指摘されています。しかしながら、現在の学校教育においては、外国人生徒への適切な対応や配慮のための体制が十分に整備されていません。

他方で、そうした日本語を第二言語とする外国人生徒を含めたインクルーシブな教育により、すべての生徒が複数の言語に触れ、新しい文化や歴史、多様性を学ぶ機会が生まれ、認知能力の強化に役立つことが示されています（Sato et al., 2009）。中でも体育学習は、身体教育を通して、公平、規律、敬意、チームワークなどを学ぶと同時に、国や文化、宗教を超えてすべての生徒を結びつけ、平和や寛容、相互理解を促すことのできる重要な場となり得ます。

そこで本研究では、よりよいインクルーシブ教育の実現に向け、ポジショニング理論[注1)]（Harré & van Langenhove, 1999）の枠組みを用いて、高等学校での外国人生徒を含むインクルーシブな教育としての保健体育学習において、その指導を担当する日本人教師が、自らの役割や責任をどのように位置付けているか（ポジショニング）を明らかにしました。

研究内容と成果

本研究では、外国人生徒への指導経験を有する高等学校の日本人保健体育教師 7 名を対象に、記述的質的研究デザインによる半構造化面接法[注2)]によるインタビュー調査を実施しました。その結果、教師は、外国人生徒を含む保健体育学習において、自らの役割や責任として、①外国人生徒への安全な学習環境の確保、②外国人生徒の学習の適切な評価、③教師であると同時に、ホストペアレントとしての責任（健康管理や心身のサポート）、という 3 つのポジショニングを意識していることが分かりました。すなわち、教師は、外国人生徒とのコミュニケーションの困難さにより、用具の取り扱いなどにおいて、予測不能な危険を伴う行動をとることがあることから、安全な学習環境の整備に懸念を抱いていました。また、外国人生徒の学習評価について、言語的な課題による筆記試験の難しさやパフォーマンス評価におけるミスコミュニケーションがあり、日本人生徒との間での不公平や外国人生徒の学習を適切かつ正確に評価することについてのジレンマを感じていました。さらに、学習面に加えて生活面においても、運動や健康に関する知識や情報を提供し、心身の健康の保持増進のためのサポートをするなど、教師としてだけではなく、外国人生徒のホストペアレントとしての役割も担っていることが示されました。

本研究により明らかになった保健体育教師のポジショニングから、日本人である教師と外国人生徒の間には、言語的な課題に加えて、健康やスポーツに関する社会的・文化的な障壁や、教育的なアプローチにおける困難さが存在していることが示唆されました。

今後の展開

今回の研究結果を踏まえ、今後、本研究チームでは、教師教育として、現場の教員が直面している課題を解決するためのオンラインワークショップを開催していく予定です。また、インクルーシブ教育に関する指導計画や評価、教師の職務等について明確な指針を定め、指導資料を作成するなど、外国人生徒に対するよりよい教育の保障に向けた教育システムの整備が望まれます。

このような分野の研究成果を蓄積していくことで、体育学習の存在意義が明確になるとともに、その学習の成果として獲得される資質や能力の向上にも寄与すると期待されます。

用語解説

注１）　ポジショニング理論

社会構成主義に基づき、人間の行動は目標を志向するとともに集団の規範や行動によって制約され、個人の主観性は他者との相互作用によって形成されるという考え方。ポジショニングには 2 つのタイプ（内省的ポジショニング、相互的ポジショニング）があり、内省的ポジショニングとは、他者との関係において自らを位置付けるために、個人が能動的かつ意識的な行動をとること、相互的ポジショニングとは、個人が自身の言動に基づいて他者を位置付けることを指す。

注２）半構造化面接法

あらかじめ決められたインタビューの質問項目に沿って質問をしつつ、相手の反応に応じて、面接者が会話の中で柔軟に話を発展させて必要な情報を得る手法。

研究資金

本研究は、科研費による研究プロジェクト（22H00999）の一環として実施されました。

掲載論文

【題　名】 Japanese health and physical education teachers' positioning in teaching Japanese language learners in high school physical education.
（日本の高等学校保健体育教師における体育学習での外国人生徒への指導のポジショニング）

【著者名】 Takahiro Sato, Chie Kataoka, Ryan T. Miller, Yu Furuta, Momoka Ikeshita, Yuka Abe, Yuma Higashiura, Kazuhiko Saito, Saori Nakayama

【掲載誌】 *Physical Education and Sport Pedagogy*

【掲載日】 2024 年 7 月 5 日

【DOI】 10.1080/17408989.2024.2374272

問合わせ先

【研究に関すること】

佐藤　貴弘（さとう　たかひろ）

筑波大学 体育系　教授

URL: https://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000004315

【取材・報道に関すること】

筑波大学広報局

TEL: 029-853-2040

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp